

50年を造る、 100年を創る。

1938年に自分たちの技術で社会に貢献する精神のもと、ボイラを製造する会社からスタートしたタクマ。環境への負担が少ないごみ処理施設やバイオマス発電所、地域の拠り所にもなるクリーンセンターなど、50年以上必要とされるものを造り、お客様や地域の日々を支えています。

これからの私たちに求められていること。それは、50年を造る技術やサービスを発展させ、環境・エネルギーのリーディングカンパニーとして、従来の枠にとらわれず、気候変動への対応や循環経済など、100年先を見据えたサステナブルな社会を創っていくこと。

50年を造る、そして、100年を創る。

これはタクマの企業価値であり、私たちのミッションです。創業時から変わらない想いを胸に、未来に向けて必要とされるものを生み出し、お客様や社会に必要とされる企業であり続けます。

At a Glance

2024年3月期 業績

売上高

1,491

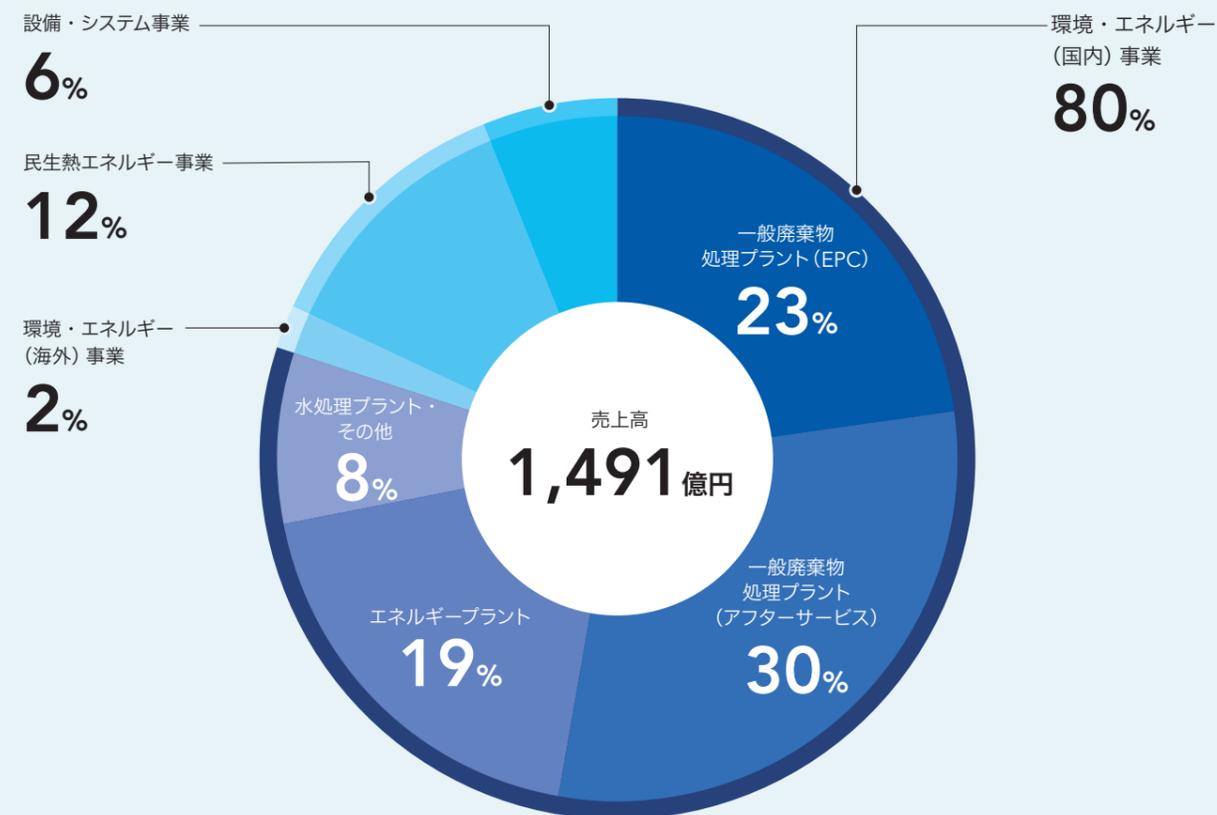
 億円

営業利益

102

 億円

セグメント別売上構成比



CO₂排出量削減への貢献

2023年度 約**450**万トン削減

バイオマスやごみの持つエネルギーを熱や電力として活用することで、日本から排出されるCO₂のうち約450万トン（約0.3%相当）の削減に貢献しています。

主な事業

一般廃棄物処理プラント



地方自治体向けにごみ処理施設（焼却、リサイクル、バイオガス化）を提供しています。焼却によりごみを減量化、無害化、無臭化でき、またリサイクルやバイオガス化により資源として有効活用することが可能です。伝染病の予防や有害物質の除去のほか、悪臭の防止や土壌・水質・大気汚染の防止に貢献しており、公衆衛生と生活環境を良好に保つために欠かせないインフラです。

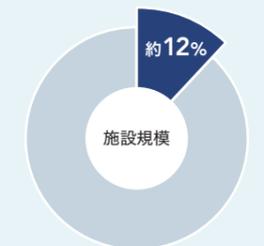
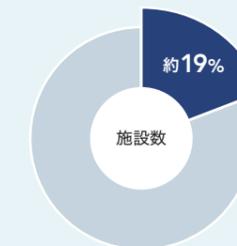
納入実績(国内)

約370

 施設

1963年に国内初となる全連続機械式ごみ焼却プラントを納入して以来、これまで国内最多となる約370施設を納入し、国内累計納入シェアでも施設数・施設規模ともにトップを誇ります。そのうち現在も稼働中の約120施設では、日本の人口のうち1/6にあたる約2,400万人分のごみを処理しており、多くの人々の暮らしを支えています。

納入シェア(国内)



No.1

ともに

エネルギープラント



民間企業向けに、生産工場に必要な熱や電力を供給する大型ボイラなどのプラントや、産業廃棄物処理プラントを提供しています。製材端材や建築廃材、未利用材といったバイオマスやRPF、産業廃棄物などをエネルギー源として有効活用することで、お客様の事業だけではなく、再生可能エネルギーの普及や環境保全にも貢献しています。

バイオマスプラント 納入実績(国内外)

約640

 基

トップクラス

水処理プラント



地方自治体向けに、下水処理施設のろ過池で使用する砂ろ過設備や、下水汚泥を処理する焼却発電システムを提供しています。高い水質基準達成のための高度処理を行う砂ろ過設備に加え、処理過程で発生した下水汚泥を熱や電力エネルギーとして活用する下水汚泥焼却発電システムを通じて、良好な水環境を支えています。

上向流移床型砂ろ過装置 納入実績(国内)

約2,900

 台

トップクラス

創業の精神 (1938年～)

汽罐報国

当社の創業者であり、明治・大正期の日本十大発明家でもあった田熊常吉が掲げた当社 (当時は田熊汽罐製造株式会社) の社是で、「汽罐＝ボイラ」の製造・販売・サービス等の企業活動を通して「報国」、社会に貢献することを意味します。

社章 (1941年～)



当社 (当時は田熊汽罐製造株式会社) の創業に際して、「研究」「製作」「据付 (設置工事)」の進歩が社業の支柱であるとして、この3つの信条を三角形にかたどり、図案化した社名 (タクマ) をあしらっています。常に製品の向上をめざし、お客様や社会に貢献しようとする当社の永遠の願いを表しています。

社是 (1992年～)

技術を大切に
人を大切に
地球を大切に

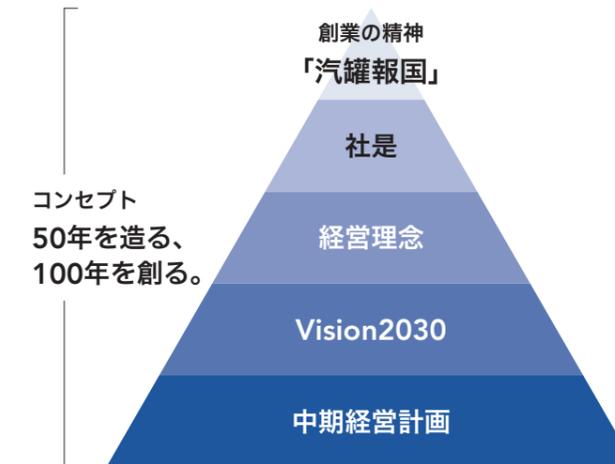
ボイラだけではなく、ごみ処理施設や水処理設備など環境衛生装置を手がけるプラントメーカーとして多角的に事業を展開していたことから、《汽罐報国》に替わる社是として1992年に制定したものです。社員一人ひとりがそれぞれの個性、才能を最大限に発揮して、常に業界の先端を行く技術を磨き、それによってこの地球環境を守っていくことを当社の心構えとしています。

経営理念 (2006年～)

世の中が必要とするもの、
世の中に価値があると認められるものを生み出すことで、
社会に貢献し、企業としての価値を高め、
長期的な発展と、すべてのステークホルダーの満足をめざす。

タクマならびにタクマグループの経営理念として創業の精神である《汽罐報国》の価値観を整理し、2006年に明文化したもので、自らが生み出す財・サービスによってお客様、ひいては世の中に貢献することをめざしております。これは現在企業経営の重要課題であるサステナビリティにも通じる理念ともいえます。

タクマの理念体系



編集方針

統合報告書2024は、財務情報とESG (環境・社会・企業統治) への取り組みなどの非財務情報を統合的に整理し、当社の一貫したESG経営への姿勢をステークホルダーの皆さまに分かりやすくお伝えすることを目的として発行しています。特に今回の統合報告書では、これまで発行していたCSR報告書を発展させ、当社の価値創造ストーリーをより明確化し、持続的成長への取り組みを一層理解いただけるよう工夫しました。本報告書をコミュニケーションツールとして活用することで、ステークホルダーの皆さまとの対話を深め、さらなる企業価値の向上をめざします。

発行者	株式会社タクマ 経営企画本部 広報・IR部
対象期間	2023年4月1日～2024年3月31日 (一部2024年度の活動を含む。)
対象範囲	株式会社タクマおよび関係会社
発行時期	2024年10月

用語説明

用語	内容
EPC	プラントの設計・調達・建設事業。Engineering (設計)、Procurement (調達)、Construction (建設・試運転) の略。
O&M	プラントの運営事業。Operation (運転管理) & Maintenance (維持管理) の略。
DBO	公共団体等が資金を調達し、民間事業者が施設の設計・建設・運営を一括して委託する方式 (EPC+O&M)。Design (設計)、Build (建設)、Operate (運営) の略。
DBM	EPC+長期メンテナンス契約の形態をとる事業。Design (設計)、Build (建設)、Maintenance (維持管理) の略。
BTO	PFI法に基づき、民間事業者が資金調達・施設のEPCを行い、完成後に施設の所有権を公共に移転し、その後、民間事業者が運営を行う事業方式。Build (建設)、Transfer (所有権移転)、Operate (運営) の略。
基幹改良工事	施設のライフサイクルコスト低減の観点から、耐用年数の長い建屋等は維持したまま、老朽化した設備を更新・改良することで、機能の回復と施設の長寿命化を図る手法。基幹的設備改良工事の略。

用語	内容
ストック型ビジネス	納入したプラントのアフターサービス(主に運転管理やメンテナンス、運営事業などを収益源とする事業)。
ストックマネジメント	既存施設(ストック)を長期的に有効活用する手法。
FIT	再生可能エネルギーの固定価格買取制度。Feed-in Tariffの略。
FIP	市場での売電価格に対して一定のプレミアム(補助額)を上乗せする制度。Feed-in Premiumの略。
CCUS	火力発電所などからの排ガス中の二酸化炭素を分離・回収し、有効利用または地下へ貯留する技術。Carbon dioxide Capture, Utilization and Storageの略。
RPF	古紙・廃プラスチック類を主原料とした固形燃料。Refuse derived Paper & Plastic densified Fuelの略。

CONTENTS

Section01

イントロダクション

タクマのステイトメント.....01
At a Glance.....02
目次・編集方針.....04

Section02

価値創造ストーリー

社長メッセージ.....06
価値創造のあゆみ.....10

タクマの技術力の進化.....12
重要課題(マテリアリティ).....14
価値創造プロセス.....16
6つの経営資本.....18
バリューチェーン.....20

Section03

戦略解説

長期ビジョン「Vision2030」.....22
第14次中期経営計画.....24
財務担当役員メッセージ.....26

営業担当役員メッセージ.....28
技術担当役員メッセージ.....29
環境・エネルギー(国内)事業.....30
環境・エネルギー(海外)事業.....34
民生熱エネルギー事業.....35
設備・システム事業.....36

Section04

サステナビリティ

サステナビリティ戦略.....37
環境への取り組み.....38

気候変動対策への貢献.....40
資源・環境保全.....42
お客様・地域との信頼関係の一層の強化.....46
パートナーシップとイノベーションの推進.....48
人材の活躍促進.....50
安全と健康の確保.....54
コーポレートガバナンスの強化.....56
リスクマネジメント/コンプライアンス.....60
役員一覧.....62
社外取締役メッセージ.....64

Section05

コーポレート・データ

財務・非財務データ.....66
納入実績.....70
企業情報・株式情報.....72